



資料3

# 本県のデジタル化の取組 ～データ統合連携基盤の整備に向けて～

令和4年2月  
神奈川県

# ICT・データ利活用推進戦略の策定（R3.12）

## <戦略策定の趣旨>

「**温かさと優しさが伝わるデジタル・エクスペリエンス**」を重視した徹底した県民目線の**神奈川らしいDX（デジタル・トランスフォーメーション）**の推進

戦略1 最新のICTの利活用

戦略2 サービスデザイン思考の導入

戦略3 デジタルデバイドの防止

戦略4 情報セキュリティの確保

**戦略5 幅広いデータの利活用**

**データ統合連携基盤の構築・活用 など**

戦略6 デジタル人材の確保・育成

**戦略7 市町村支援・連携**

**市町村との新たな意見交換の場の設置、市町村と共同の情報セキュリティ環境の提供と  
緊急時対応、県・市町村協議会による共同システムの活用 など**

# 「データ統合連携基盤」に係る取組

## 県と市町村が共同利用できるデータ統合連携基盤を整備

幅広いデータを迅速に収集、統合、連携、分析するなど  
様々なデータ利活用できる基盤を整備し、DXを推進



リソースを共有しながら地域の様々な社会課題の解決を目指す

まず**防災分野**から、県と市町村で共同利用できる仕組みを整備

### ＜基盤を共同利用するメリット＞

- ① 災害時等における他自治体との迅速な情報共有
- ② 基盤・機能の共通化による災害時の強靱なBCP対応
- ③ 共同運用による人材やコストのシェア

# 市町村におけるデータ統合連携基盤の活用例（防災分野）

## データ収集、分析、予測に基づく物資の確保・提供、避難支援、避難所設営

### 【平時】

- 住民の属性や必要物資等のデータを事前に収集

↓ 基盤上でシミュレーション

- 避難所や必要物資の準備
- 避難計画策定や訓練実施

### 【発災前～発災時】

- 基盤に、気象や交通、河川水位等のデータを自動で迅速に収集
- 収集したデータを自治体間でリアルタイム共有

↓ 基盤上で災害予測

- 避難指示等の発令判断支援
- 個々の住民の状況に応じた避難支援、避難所設営、物資を提供



通知



避難



避難指示等が  
プッシュ通知で届く

- 必要人数分のスペースと物資が予め準備
- 避難者に合わせた薬等も必要に応じて届く

# 現在の取組状況 ～検討会での検討と実証実験の準備～

## <基盤の整備に係る検討会>

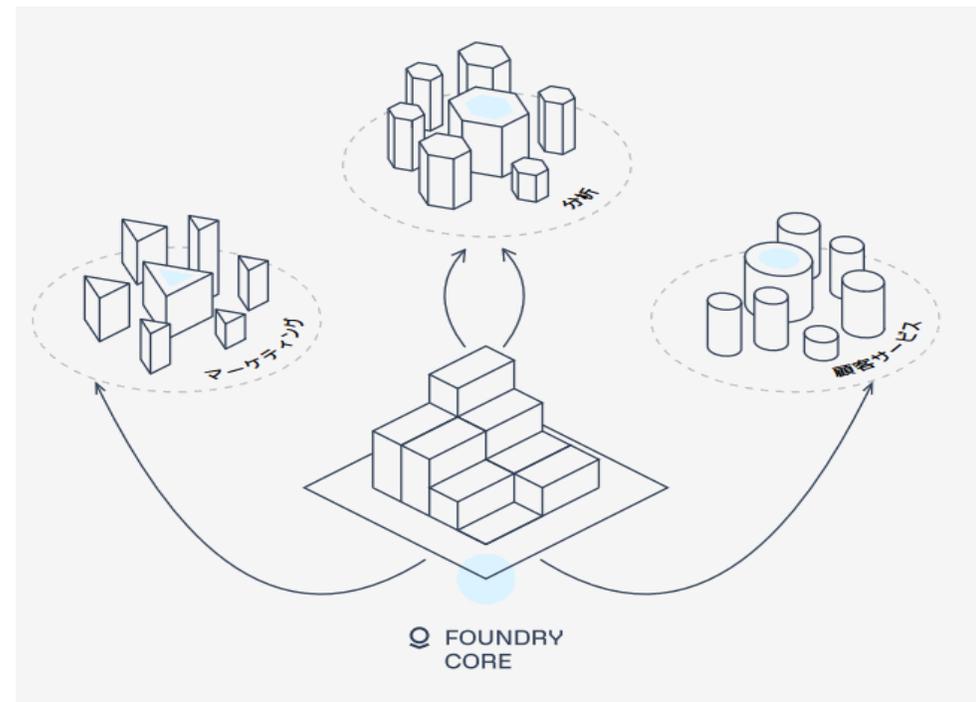
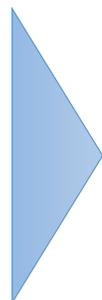
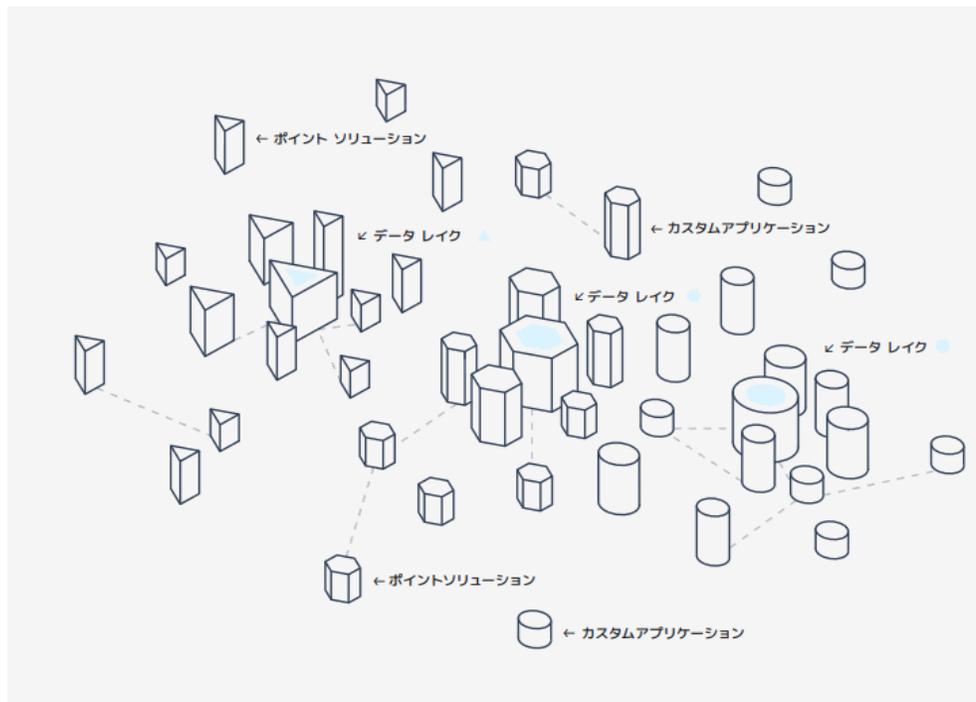
- ・令和4年1月17日、第1回検討会を実施
- ・防災、データ、セキュリティ、情報法制等の専門家、及び県内25市町村の関係者が参加

## <実証実験>

- ・令和4年1月31日に県及び実証参加16市町によるワーキンググループを立上げ
- ・検討会の検討内容も踏まえ、実証実験の実施に向けた実務レベルの協議を開始

# (参考 1) 県の実施状況

## 令和3年度にデータ統合連携基盤を導入し運用中

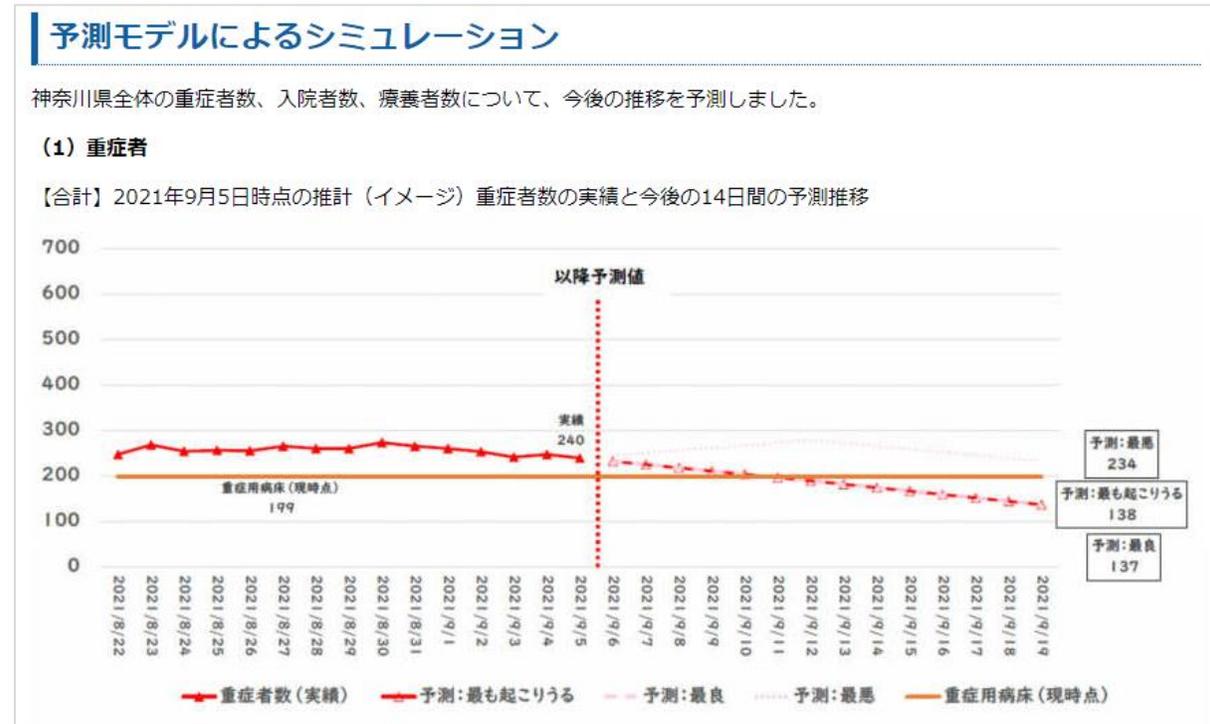
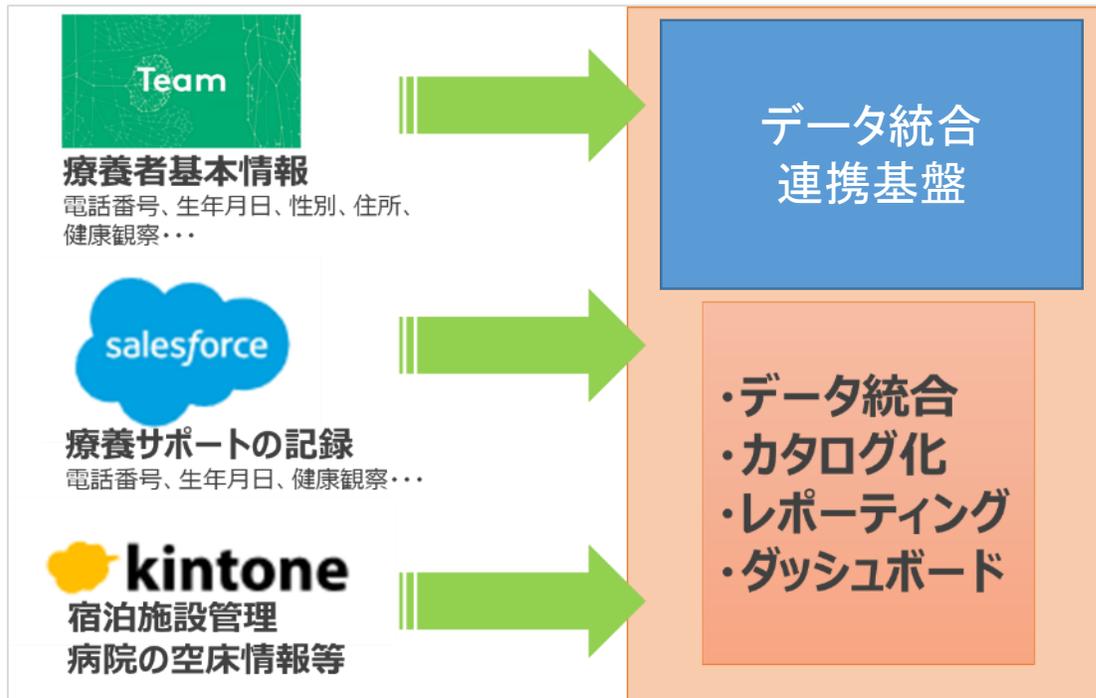


- ・複数システムでばらばらにデータを管理
- ・データ連携、利活用が十分にできない

- ・データ形式を問わず**1か所に統合**
- ・あらゆるユーザーが**利用可能**
- ・データ連携、利活用による**データ価値の最大化を図る**

# (参考2) 事例① 新型コロナ・予測モデルによる重症者数等シミュレーション

県が保有するコロナ関連データと人流データなど約50種をデータ統合連携基盤上で統合し、**コロナ感染予測シミュレータ**をSHI(ヘルスイノベーションスクール)と共同開発

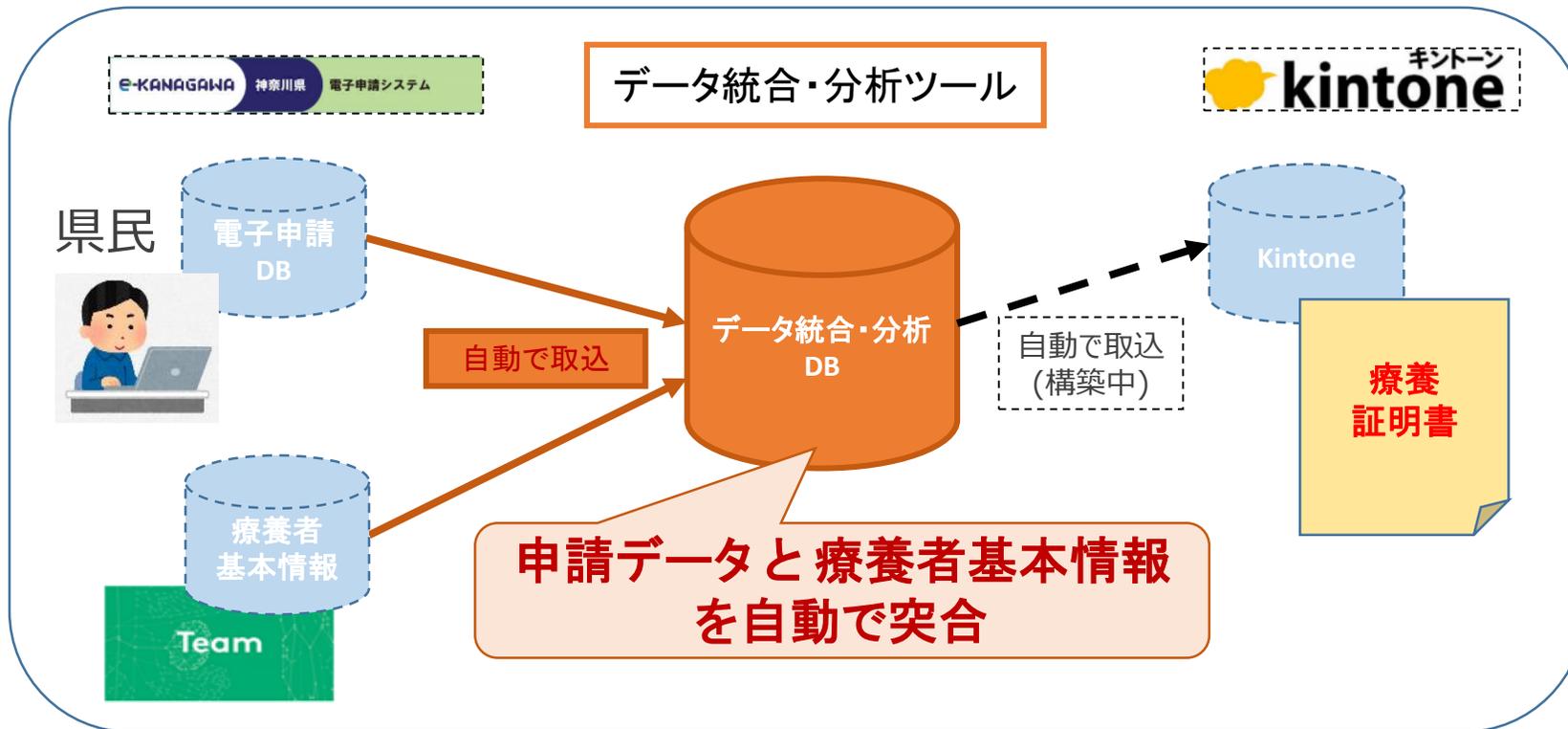


新型コロナウイルス対策本部会議で予測値を使用、県HPにモニタリング指標として掲載するなど、**コロナ対策の中で活用**



# (参考4) 事例③ 新型コロナ療養証明書の出力作業の自動化【開発中】

手作業で行っていた**療養証明書の出力作業を自動化**（一部機能を先行して使用開始）



【処理可能件数】

10件/人 ▶ 20件/人

**業務効率が2倍に！**

手作業で行っていた申請データの**自動取込み**、療養者基本情報との**突合の自動化**により大幅な省力化を実現

# (参考5) 「データ統合連携基盤の整備に係る検討会」

## ＜参加市町村＞ (25市町村、令和4年2月4日時点)

横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、平塚市、鎌倉市、藤沢市、逗子市、秦野市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、綾瀬市、葉山町、大磯町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、愛川町、清川村

## ＜専門家＞

臼田 裕一郎 (防災科学技術研究所 総合防災情報センター センター長)

喜連川 優 (国立情報学研究所 所長／東京大学 特別教授)

庄司 昌彦 (武蔵大学 社会学部メディア社会学科 教授)

友岡 史仁 (日本大学 法学部経営法学科 教授)

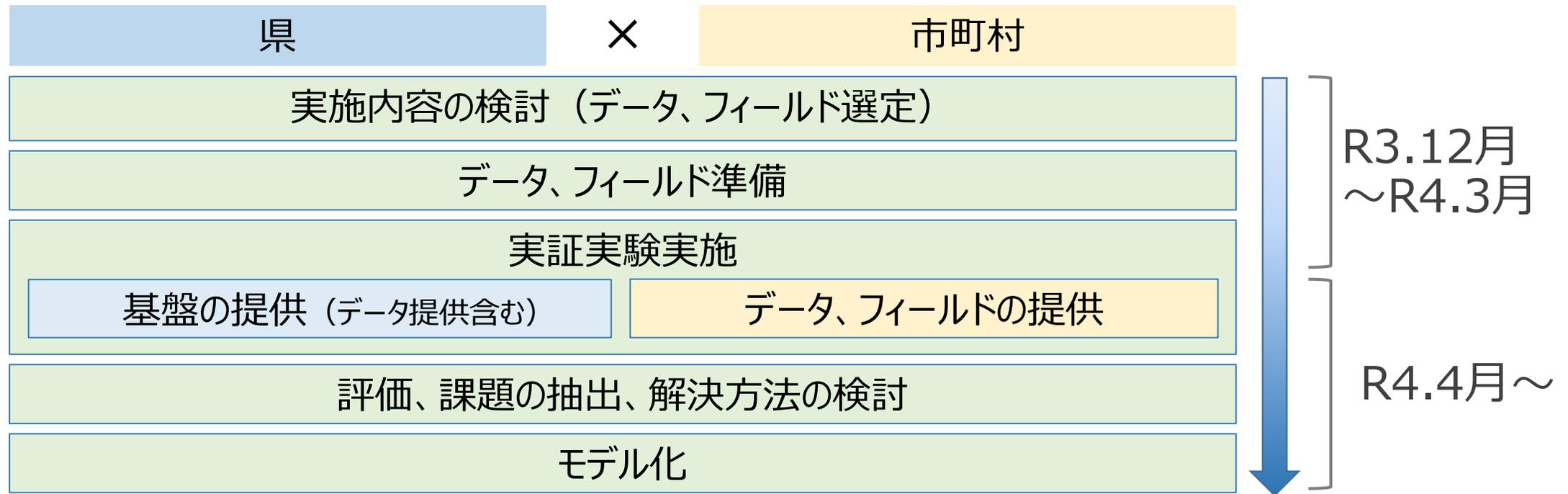
湯淺 壘道 (明治大学公共政策大学院 ガバナンス研究科 教授)

横田 明美 (千葉大学大学院 社会科学研究院 准教授)

(50音順)

# (参考6) 「基盤を活用した防災分野における実証実験」①

- ・まずは防災分野から開始する
- ・データ、フィールド提供や企画、検討により市町村に参画いただき、実証実験で評価、課題の抽出、解決方法の検討を経て、モデル化を目指す



## （参考 6）「基盤を活用した防災分野における実証実験」②

### 「神奈川県データ統合連携基盤実証ワーキンググループ」を立ち上げ

- ・県及び実証参加市町村による実証実験実施のためのワーキンググループ
- ・検討会の検討内容も踏まえ、実証実験の実施に向けた実務レベルの協議を開始

#### ＜参加市町＞（16市町、令和4年1月28日時点）

横浜市、平塚市、鎌倉市、藤沢市、逗子市、厚木市、伊勢原市、海老名市、葉山町、大磯町、中井町、山北町、開成町、真鶴町、湯河原町、愛川町